

富士運輸 全国ネットワーク強化 業容拡大・多様化を推進 首都圏のシャトル便も拡大



井上博登執行役員営業部長(航空貨物担当)

富士運輸(本社=奈良市、松岡弘晃社長)が全国ネットワークを強化している。井上博登執行役員営業部長(航空貨物担当)は「ネットワーク強化で、よりきめ細かなサービスが可能になるとともに、イレギュラー時のバックアップ体制の強化にもつながる。業容拡大、多様化を図る上でも、ネットワークが重要となる」と説明。現行の22拠点を30拠点到拡大する計画だ。航空貨物分野では、エクスプレス貨物やEMSの成田空港と都内集配拠点間のシャトル便需要が拡大している。また来年春をめどに、子会社のフジエアカーゴエクスプレスが、成田空港到着輸入貨物の通関後の配送事業を開始する計画であることも説明した。さらに機材小型化でスペース減少に見舞われている国内航空貨物業界における陸送需要にも、積極的に対応する考えを示した。

井上執行役員の発言要旨は次のとおり。

▽富士運輸の現在の事業は、郵便や一般貨物(メーカーの貨物取り扱い)、OLTやシャトル便事業などの航空貨物関連、路線事業者の幹線輸送など。日本でも先駆け的存在として大型車のCNG車(天然ガス自動車)の導入も進めており、航空貨物業界における環境対策も進めたい。航空保安講習を全国の各拠点で実施している。重要性が増している保安対策を全国同一水準で推進する。

▽現在、エクスプレス貨物やEMSの成田空港—都内集配拠点間のシャトル便輸送および羽田空港—成田空港間輸送を手がけており、いわゆるベイエリアのシャトル便サービス事業が確立した形。運行車両台数も増えている。今後はベイエリアの業務をさらに拡大する。

▽富士運輸の拠点数は現在、全国22拠点。事業計画的にはこれを30拠点到拡大する計画だ。来年春には北陸方面にも拠点を整備する計画だ。また長野県、北関東、九州東部での拠点展開も検討している。九州に関しては福岡2拠点、長崎、熊本に拠点があるが、九州東部の事業を強化するうえで拠点展開を検討している。現在の拠点のうち成田、名古屋、亀山、奈良、高松、福岡は24時間営業している。

▽全国をカバーするネットワークを構築することで、小回りがきき、きめ細かいサービスの提供が可能となる。さらに、例えば輸送・配送中にイレギュラーが発生したときにも迅速なバックアップが可能となる。業容拡大、多様化を図る上でもネットワークが重要となる。

▽全国にネットワークを拡大することで、災害などの緊急時に特定エリアでの事業展開が困難になったときにも、他のエリアからのバックアップ、あるいは他のエリアで事業展開が可能であることにより、会社全体としても事業を継続、維持できる。そうしたリスクヘッジの観点からもネットワークはより重要性を増す。

▽10月1日には、宮城県岩沼市の運送会社、針生運送をフジホールディングス・グループに加えた。9月1日には、リンクネットワーク(本社=奈良市)を設立した。リンクネットワークはトラックの利用運送事業を展開する企業として、用車・配車業務を展開している。奈良市と高松市に配車センターがあり、年内には都内にも配車センターを開設する予定だ。

▽自社ネットワークを強化するとともに、自社ネットワークではカバーしきれないサービスは、用車のネットワーク・サービスを活用することで、サービスメニュー・アイテムを拡大する。これまで以上にニーズに柔軟に対応できる体制を整備している。

▽国内航空貨物業界は、機材のダウンサイジングという課題に直面している。これを補完するために、陸上輸送のネットワークが必要になっている。こうした陸送ネットワークのニーズを取り込むことが重要性を増している。今後も国内航空貨物分野における陸送サービスを強化したい。

▽フジエアカーゴエクスプレスが来年春にも、成田空港関連事業を計画している。空港を基点として、輸入貨物の通関後の配送サービスなどを提供する計画だ。車両は軽、2トン、4トン、10トン、トレーラーの活用を検討しており、さまざまなニーズへの対応を可能とする。成田は東北地方への玄関口としても位置づけられる。東北から関西を成田の拠点が、関東から九州を大阪の拠点が中心となってカバーする体制を構築している。